

【取材レポート】ビジネス志摩

H30.8.21

8月21日（火）松尾町商店街にある ビジネス志摩 に取材に行きました。



「ビジネス志摩の歴史は？」

ビジネス志摩 は、松尾町商店街にあります。お店は、昭和20年創業で、初めは志摩商店という名前で始まり、ビジネス志摩に変わったそうです。

志摩氏「当時は、万年筆がとてもよく売れていて、多くの種類の万年筆をお店に置いたり、電卓付きボールペンや水性ボールペンの先駆け商品など、話題性のある商品やヒット商品を置いていました。品物の変化とともにお店も時代に合った変化をすることで、現在まで長く続いています。」

「どんなお客様がいらっしゃいますか？」

志摩氏「ご年配の方が多くですね。多くの方が、やっぱり志摩さんのところで買ったボールペンがいいと仰ってくださいます。また、小売りとともに会社への納品も行っています。」

「心がけていることは？」

志摩氏「丁寧な接客を心がけています。また、観光客の方もいらっしゃるなので、日本製の文房具の良さを海外の皆様にも伝えられるように心がけています。ボールペンなどの文房具はもちろんです。浮世絵や花札などの面白い和風の折り紙や、真田丸が話題になったときは真田の兜を作ることができる折り紙などを置くことでお客様に楽しんでもらえるように考えています。」

「大変なことや悩みはありますか？」

志摩氏「インターネットが普及してきて、通販でものを売買することが多くなってきたことにより、様々な通販サイトが出てきました。国内だけでなく、海外の通販サイトも多くの方が日常で使うようになり、価格競争も激化し、文具業界も影響をうけるようになりました。

そこで、価格競争ではどうしても負けてしまいますが、地域に密着している強みを生かして、お客様に実際に手に取ってもらい、自分の目で見て、納得して買っていただくことが大切だと考えました。市場をいち早く把握しニーズに合った商品を理解し、自信のある商品に絞って店頭で置くことを大切にしています。」



《取材を通しての感想》

店内には多くの折り紙作品がありました。普通の折鶴から豪華なウエディングケーキの作品まで素晴らしい作品がたくさん置いてありました。

志摩氏「ここに飾ってある折り紙は家内やお客様の作品がほとんどです。」

「韓国の方に頂いたカゴもあるんです。」

志摩さんご夫婦の人柄もとても愛されるお店の理由なのだと感じました。



今回は、ビジネス志摩取材をいただいたのですが、上田市出身であってもまだまだ知らないお店が多いと感じました。もっと商店街を知っていきたいと思います。